

【事業名称】

第30回全日本中国語スピーチコンテスト

【開催日時】

2013年1月13日

【開催場所】

東京都文京区・日中友好会館地下ホール

【主催者・共催者等】

(主催) 公益社団法人日中友好協会 (協賛) 全日空 (特別協力) 公益財団法人日中友好会館 (後援) 外務省、文部科学省、中日友好協会、駐日中国大使館など

【事業内容】

全国19の都道府県大会を勝ち抜いた20人が実力を競い合った。大学生部門では中国語学習の楽しさ、魅力について語った外山一成さんが、高校生・一般部門では過去に聞いた残留孤児の話をもとに「母」について語った深田嘉男さんが、それぞれ第1位に輝いた。村岡久平理事長は、30回の節目を迎えたことについて、「継続は力なり。多くの成果を積み上げてきたこの大会を末永く開催したい」とあいさつ。一方、輿水優・審査委員長(東京外国語大学名誉教授)は、尖閣問題による日中対立の現状にふれ、「言葉の(やりとりの)問題も原因の一つ。大会開催はその改善のための手助けの一つになれる」と述べ、日中の相互理解を目的としている大会の意義を改めて強調した。

中国での留学経験の無い外山さんと、70歳の深田さんが第1位となったことが幅広い学習者層に刺激となり、「相互理解」や「心の交流」などについて表現した内容が多かった。講評した横川伸・東洋大学名誉教授は、「全体的にレベルが高く、甲乙付けがたかった」と振り返った。当日は、遠山茂・外務省中国・モンゴル第一課地域調整官、中国大使館から孟素萍一等書記官、王麟・張浩帆両三等書記官、王昆・日中友好会館中国代表常任理事、内藤裕之・国際文化フォーラム常務理事、関誠・日中経済協会理事ら来賓を含む約200人が来場。朗読部門の入賞者による発表会も行われた。



全出場者と審査員ら関係者



大学生部門の様様